

ちがさき環境ワークショップ

実施結果報告書

令和2年1月

環境政策課

目次

1	ちがさき環境ワークショップの概要.....	1
	・ワークショップの目的.....	1
	・開催日程.....	1
2	ちがさき環境ワークショップのまとめ.....	2
	・第1回ワークショップ.....	2
	・第2回ワークショップ.....	8
	・第3回ワークショップ.....	13

1 ちがさき環境ワークショップの概要

ワークショップの目的

ちがさき環境ワークショップは、今ある自然や多様な動植物とそれを育む温暖な気候を未来につなげ、持続可能な『環境にやさしいまち』をつくるため、「目指すべき環境の将来像」について市民意見を聴取する場として開催し、自然環境、ごみ減量化・環境美化、地球温暖化対策のテーマごとに、10年後の茅ヶ崎の環境のイメージや環境政策のあり方についてグループによる意見交換を行いました。

ワークショップを通じて得られた意見・アイデアは、次期茅ヶ崎市環境基本計画（骨子案）への反映・応用を図りました。

開催日程

開催日時		討議テーマ	参加者数
第1回	令和元年 9月7日（土）	（全体説明） ・茅ヶ崎市環境基本計画の見直しについて （グループ単位） ・地域で残しておきたい自然、改善したい環境について ・今後、重点的に取り組むべき分野・取り組みについて	15名
第2回	令和元年 11月30日（土）	（全体説明） ・前回ワークショップのおさらい （グループ単位） ・将来の環境像、10年後の茅ヶ崎の環境のイメージについて	11名
第3回	令和2年 1月18日（土）	（全体説明） ・前回ワークショップのおさらい （グループ単位） ・みんなが環境活動に参加できる仕組みについて	15名

2 ちがさき環境ワークショップのまとめ

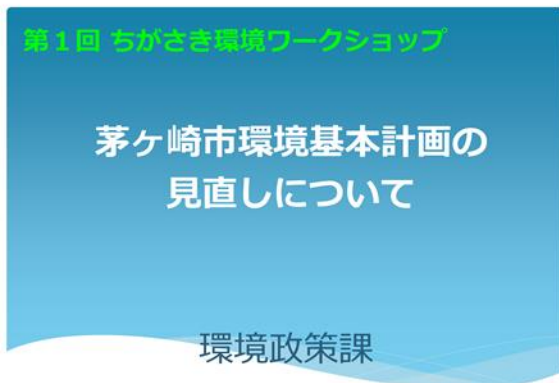
第1回ワークショップ

実施プログラム

- 1 開会あいさつ
- 2 茅ヶ崎市環境基本計画の見直しについて
- 3 市内の環境についての意見交換
 - (1) 討議テーマの説明
 - (2) 自己紹介・意見交換
 - (3) 各グループの意見発表
- 4 閉会あいさつ

配布資料（説明スライド）

●茅ヶ崎市環境基本計画の見直しについて



1. 環境基本計画とは

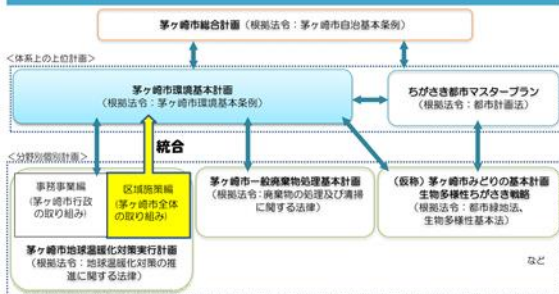
(1) 計画の目的

- 「茅ヶ崎市が目指すべき環境の将来像」を掲げ、その実現に向けテーマを5つ定め、達成すべき目標と施策を設定
- 現行の「茅ヶ崎市環境基本計画（2011年版）」の計画期間が2020年度に終了することから、次期計画となる『（仮称）次期茅ヶ崎市環境基本計画』を策定

(2) 計画の位置づけ

- 市の最上位計画である「茅ヶ崎市総合計画」（策定中）を環境面から推進し、**環境行政の最も基礎となる計画**
- 今後10年間の茅ヶ崎市の**環境分野の取り組みの方向性を定めたもの**が「環境基本計画」

●計画の位置づけのイメージ



(3) 計画の期間・範囲

- 総合計画と整合を図り、**2021年度から2030年度までの10年間**
- 対象とする分野は、国の環境基本計画と整合を図りつつ、**自然環境、資源循環・廃棄物、地球環境・エネルギー、都市環境、公害・生活環境、環境教育・学習の6分野**
- 対象とする地域は茅ヶ崎市全域

(4) 計画の推進主体

- 推進主体は**市民・事業者・市（行政）とし、それぞれの役割に応じて環境に配慮した行動を協働で実践**

2. 計画の見直しにあたって

(1) 策定の方向性

- 世界的なトレンド及び**社会情勢の変化に対応した計画づくり**
- 茅ヶ崎市の環境施策を大局から俯瞰した計画づくり
- 国や県の関連する計画の内容を勘案しつつ、茅ヶ崎市の特性に合わせた計画づくり
- 「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals、「SDGs」)を意識した計画づくり
- 計画策定の段階から市民参加を進め、各主体の合意に基づく計画づくり
- 成果を明確にできるよう、目標による管理ができる計画づくり
- 実現可能性を追求した、**より現実的な計画づくり**
- 「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」、「地域気候変動適応計画」を統合した計画づくり

(2) 社会背景等の整理

① パリ協定と地球温暖化対策計画

2020年以降の地球温暖化対策の国際的な枠組みが2016年11月に発効

パリ協定

世界全体の平均気温の上昇を2℃より十分下方に抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること、このために今世紀後半に人為的な温室効果ガス排出の実質ゼロ(人為的な温室効果ガス排出量と吸収量を均衡させること)にすること

「パリ協定」の採択を受けて、日本では「地球温暖化対策計画」を2016年5月に策定

「2030年度に2013年度比26.0%減」とする温室効果ガスの削減目標

② 持続可能な開発のための2030アジェンダ

人類が豊かに生き残るための基盤となる地球環境の悪化

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を全会一致で採択

- 「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むため、

「持続可能な開発目標」

(Sustainable Development Goals:SDGs)

を掲げている

持続可能な開発目標 (SDGs) における17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



③ 第五次環境基本計画

目指すべき社会の姿の一つとして、

地域循環共生圏

○各地域がその特性を生かした強みを発揮
→地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
→地域の特性に応じて**補完し、交差**合う

目指すべき社会の実現に向けて

1. SDGsの考え方も活用し、**環境・経済社会の統合的向上**を具体化。
2. 地域資源を持続可能な形で最大限活用し、**経済・社会活動をも向上**。
3. より幅広い関係者と連携。

④ 気候変動への適応

- 近年、気温の上昇、大雨の頻度の増加や、農作物の品質低下、動植物の分布域の変化、熱中症リスクの増加など、**気候変動の影響が全国各地で起きており、さらに今後、長期にわたり拡大するおそれがある。**
- 日本では、地球温暖化対策推進法の下で、**温室効果ガスの排出削減対策する「緩和策」を進めてきたが、気候変動の影響による被害を回避・軽減する「適応策」は、法的に位置付けられていなかった。**

「気候変動適応法」(2018年6月)が成立

3. 今後のスケジュール

- 本ワークショップによる意見(茅ヶ崎市の環境課題、将来の環境像など)を盛り込みながら、本年度は**骨子案**を作成

- **骨子案作成までの間に市民ワークショップを3回開催予定**

- ☞ 地域で残したい環境を考える
- ☞ 10年後の理想的な環境をイメージする
- ☞ みんなが環境活動に参加できる仕組みを考える

●地域で残しておきたい自然、改善したい環境、今後、重点的に取り組むべき分野・取り組みについて

第1回 ちがさき環境ワークショップ

本日の討議テーマについて

環境政策課

1. 本日の討議テーマ

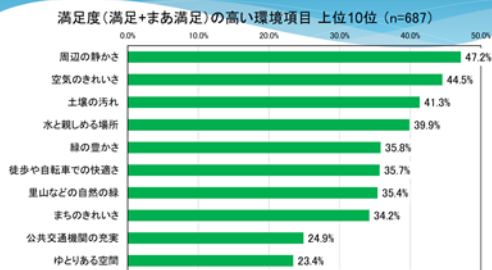
- 地域で残しておきたい自然、改善したい環境
- 今後、重点的に取り組むべき分野・取り組み



「骨子案」の策定に必要な課題把握、見直しを図るべき環境施策を市民の皆さんの目線から整理・反映

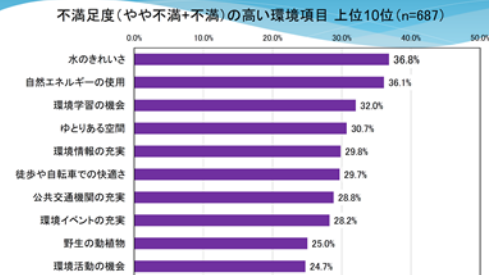
(参考) 市民アンケート結果速報版

(1) 茅ヶ崎市の環境に関する満足度 (n=687)



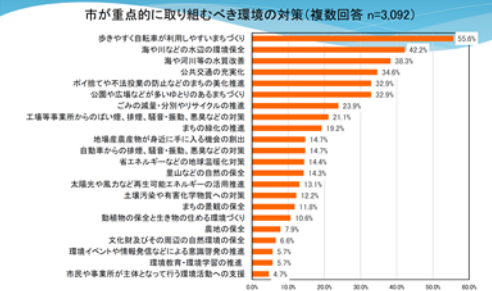
(参考) 市民アンケート結果速報版

(2) 茅ヶ崎市の環境に関する不満足度 (n=687)



(参考) 市民アンケート結果速報版

(3) 市が重点的に取り組むべき環境の対策



残したい自然環境

- ・ 海岸の松原。三保の松原に匹敵する自然資源である。
- ・ 海岸の砂が減少している。川の運搬作用が減ったためではないか。
- ・ 小出川的环境。
- ・ 市域北部の農地、緑地の保全が必要である。大気汚染の改善にも貢献している。

保全に向けた取組み・アイデア

- ・ 海岸の松原は、隣接市町村と連携して保全していけると良い。
- ・ 松原は量の保全だけでなく、マツクイムシ被害への対処など質の保全も図っていかねばならない。
- ・ 里山～川～海までをつなぐフットパスの取組があると良い。
- ・ 小出川の湧水地の保全も必要である。流域全体を保全するという視点も必要である。
- ・ 小出川の多自然型川づくりが進むと良い。一部だけでもかまわないので、国、県、市が連携して整備が進むと良い。
- ・ 河川整備にあたっては、環境と防災（治水）のバランスをとることも重要である。
- ・ 農地を保全するためには「生業」としての農業が成立することが大事。安全なものを食べられるという安心感（地産地消）と農地保全が結びつくと良い。
- ・ 里山～川～海をつなぐネットワークづくりが重要である。生物多様性にも貢献する。

環境教育

- ・ 子どもの時から環境の重要性について学んでもらうことは大切なことである。
- ・ 学校での環境教育は、現実的には手いっぱいでは拡大できない。力量を持った先生も少なくなっているのではないか。
- ・ 教育委員会や各学校と連携して、活動団体による出前授業の仕組みができると良い。クラス単体で授業するのは難しいので学年単位とかなら対応できるかもしれない。

市内の環境活動団体

- ・ 団体活動を行っているが、なかなか新規の参加者が増えない。
- ・ 市民の方に活動の状況がなかなか伝わっていないもどかしさがある。
- ・ 活動を報告できる場、発表できる場があると良い。
- ・ 活動団体間の横のネットワークづくりも必要である。
- ・ 小学生がイベント等に参加してくれれば、保護者も参加するので効果的である。
- ・ 市民の環境活動の拡大、人づくりのためにも、効果的な情報発信の方法について検討していかなければならない。

減量化・プラスチックごみの削減

- ・大規模事業者（ISO 認証取得）は積極的に取り組んでいるが、一般家庭や小規模事業者はルーズなところもある。
- ・祭やイベントでプラスチック容器を使用しない。
- ・プラスチック容器がなかった昔の自然由来の紙、経木、竹の皮等を使用するようにする。
- ・ごみ回収の有料化を図るのであれば、経済的な弱者がごみを出せるような対策が必要である。

市の焼却場

- ・ごみ焼却場が発電に活用されていることの積極的な情報発信が必要である。
- ・ごみ焼却場の廃熱を利用して地域活性化や観光資源への活用が考えられないか。

ごみの分別・回収（プラスチック廃棄物の回収を含む）

- ・プラスチックの袋が増えた。
- ・プラスチックの回収戦略を見直すべきではないか。
- ・量的なことを考えてプラスチックの回収方法を考えるべきである。
- ・以前より分別は細分化され、ごみステーションはきれいになった。
- ・他市では高齢者がごみステーションまで持って行けない場合、近所で助け合っている。茅ヶ崎市ではまごころ回収を行っている。

教育、人づくり

- ・地域の催しにおいて長年ゴミの分別や減量に取り組んでいると、参加者の意識が向上し、分別や減量の対応レベルが高まる。参加した子どもの意識も高まり、家庭での生活においても同様な行動をするようになる。
- ・地域の集まりに参加出来ない人も巻き込む努力が必要である。
- ・子ども達にプラスチックのリサイクルの意識付け、日常的に分別の仕方を教えて欲しい。

地球温暖化の認識・影響

- ・茅ヶ崎市では地球温暖化への危機感が薄い、昨年度の西日本豪雨で大きな被害があったように、今後茅ヶ崎市でも大雨による水害の可能性を考え対策していく必要があるのではないか。
- ・緩和策とともに、適応策も重要である。
- ・昨今の異常気象の全てが必ずしも温暖化の影響といえるわけではない。特に気温上昇については、温暖化対策とヒートアイランド対策は混同しないようにすべき。

市民への普及啓発

- ・一般的な温暖化の知識は一定程度浸透しているが、行動に結びついているか？
- ・具体的に何をすれば省エネ・CO2削減につながるのか分からない。
- ・普及啓発だけでなく、実際の削減効果はどうか。具体的に何をすればどの位削減できるのかまで考える必要がある。
- 具体的かつ効果的な行動につながる普及啓発が必要**
- ・啓発の方法案
防災無線で放送、ごみ収集車でアナウンス、
温暖化による影響をシミュレーションして、資格に訴える資料で説明する、
市が運営する「ちがさきエコネット」（前月・前年度比較ができる）を活用する
他

企業の取組推進

- ・事業活動の拡大とともにCO2排出量が増える
→企業が省エネ・CO2削減を推進していくことが重要
→**中小企業が取り組める、一歩踏み出せるようなインセンティブが必要**
→しかし、限られた税収の中で、インセンティブ付与は難しいのではないか

自然エネルギーの活用（設備導入等）

- ・**エネルギーの自給や地産地消が重要**
- ・家庭向けの太陽熱温水器が効果的と思われるが導入が広がらない。
→理由：団地では合意形成が難しい、メーカーの詐欺事件などでイメージが悪いなど
- ・海が近いので、設備は塩害対応のものでないと導入できない。
- ・FIT終了後の蓄電池の活用も必要。

財源確保

- ・経済活動（収入源をかせぐ）と環境活動を一体的に考える必要がある（環境対策に充てる税収を増やす）
- ・財源確保には、若い世代を増やす、子育て世代に良い環境づくりが重要（例えば川崎の「ゆめパーク」のような地域の遊び場の例や、都市公園の活用）
- ・観光の視点から環境を考える
- ・観光に来てもらえるよう文化資源を活用する（回遊ルートを整備する等）



第2回ワークショップ

実施プログラム

- 1 開会あいさつ
- 2 前회のおさらい、本日の討議テーマの説明
- 3 将来の環境像、10年後の茅ヶ崎の環境のイメージについての意見交換
 - (1) 自己紹介・意見交換
 - (2) 各グループの意見発表
- 4 閉会あいさつ

配布資料 (説明スライド)

第2回 ちがさき環境ワークショップ

本日の討議テーマについて

環境政策課

1. 第1回WSのおさらい

●地球温暖化対策グループ

地球温暖化の認識・影響

地球温暖化は、地球温暖化対策推進法が、世界の温暖化対策を推進するために、先進国と途上国に協力を促すことにより、世界の温暖化対策を推進していることである。

●地球温暖化とは、気温上昇を指す。

●地球温暖化の原因は、温室効果ガスの増加によるものである。

市民への普及啓発	企業の取組推進
<ul style="list-style-type: none"> 一般的に市民の関心は低く、理解が浅い。 市民の関心を喚起し、理解を深めようとする。 市民の関心を喚起し、理解を深めようとする。 市民の関心を喚起し、理解を深めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の関心を喚起し、理解を深めようとする。 市民の関心を喚起し、理解を深めようとする。 市民の関心を喚起し、理解を深めようとする。 市民の関心を喚起し、理解を深めようとする。

財源確保

1. 第1回WSのおさらい

●ごみ減量グループ

減量化・プラスチックごみの削減	ごみの分別・回収 (プラスチック廃棄物の回収を自覚)
<ul style="list-style-type: none"> プラスチックごみの削減が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。 プラスチックごみの削減が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。 プラスチックごみの削減が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックごみの削減が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。 プラスチックごみの削減が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。 プラスチックごみの削減が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。

市の役割

教育、人づくり

1. 第1回WSのおさらい

●自然共生グループ

新しい自然環境	保全に向けた取組み・アイデア
<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の保全、自然環境の回復が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。 自然環境の保全、自然環境の回復が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の保全、自然環境の回復が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。 自然環境の保全、自然環境の回復が、環境的に有効であると、一般市民や事業者が認識して取り組む必要がある。

環境教育

市内の環境活動団体

2. 本日の討議テーマ

10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

市民、事業者、市が共有できる「分かりやすい将来イメージ」を立案

- 欠けている重要事項がないか？
- どのような施策・事業が必要か？
- 茅ヶ崎らしさが表現されているか？

今後、施策・事業を立案していくうえで、



- 成果を明確にできるよう、目標による管理ができる計画づくり
- 実現可能性を追求した、より現実的な計画づくり

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

自然共生のイメージ案

谷戸や里山、北部の丘陵地、海岸、農地などの自然が多く残されており、適切に維持されています。多様な生き物が確認でき、オオタカなどの猛禽類が飛翔する姿も頻繁に見られるようになっています。みどりや水とふれあえる機会や場も広がり、暮らしの中で自然の豊かさを実感できるまちになっています。雨水の貯留や涵(かん)養能力を持つ農地、樹林地が保全され、水が健全に循環するまちになっています。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

資源循環のイメージ案

必要な時に必要な量だけ商品を購入する、捨てる前に必要としている人に譲るなど、環境に配慮した消費行動が定着しています。家庭では水切りの徹底や食品ロスを減らす取り組みが広がり、家庭から出される燃やせるごみが減っています。資源化が可能な紙類やプラスチック製容器包装などの分別排出も徹底され、市民1人が1日当たりに排出するごみの量が少ないまちになっています。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

快適な住環境のイメージ案

水や大気、土壌環境については環境基準を維持し、継続的に改善が図られています。騒音や振動、光害などに悩まされる市民が減っています。ポイ捨てや不法投棄が減り、良好な住環境が維持されています。人々に愛着のあるみどり、水辺、公共空間、まち並み、心象風景、眺望、祭事等の景観資源が維持されています。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

気候変動への対応のイメージ案

家庭や事業所における省エネ行動が定着しており、「賢いエネルギーの使い方」が当たり前になっています。また、太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの活用など、気候変動を緩和する取組が図られています。さらに、気候変動に適應する取組も進められており、豪雨などによる自然災害対策や熱中症を予防する取組が浸透したまちになっています。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

環境保全活動のイメージ案

環境について学び、行動する機会が身近にあるまちになっています。家庭や学校、職場など様々な場面で、省エネ行動やごみ減量の取組を行うことが、市民や事業者に着実に定着しています。多様な自然と歴史・文化にあふれた茅ヶ崎を、より豊かにして未来の子どもたちへ引き継ぐため、市民、事業者、市が連携してさまざまな環境保全活動に取り組む、環境にやさしいまちになっています。

10年後の茅ヶ崎の環境のイメージについての主な意見

- ・流域市町、周辺市町との連携
- ・谷戸、農地、河川、海などの環境を俯瞰して一体のものとして捉える視点

環境施策についての主な意見

【水循環について】

- ・水循環の取組を行うには、流域自治体との連携が不可欠。流域自治体と政策でつながる必要がある。
- ・相模川の両岸自治体で何らかの政策提携をすべき。
- ・茅ヶ崎海岸の砂浜の交代も流域自治体で連携しないといけない。
- ・緑だけでなく、川や沼の保全にも力を入れてほしい。
- ・例えば田んぼが持つ遊水機能はとても重要。先日の台風被害を考えると、洪水調節機能の面から農地の保全が必要である。
- ・田んぼの助成金を継続すべき。若い人に継承していくべき。
- ・例えば、学校跡地利用時に保水の視点で舗装を考えてほしい。水を一時貯留するという視点で公共工事をするべき。
- ・保水という観点からは、河川上流部の樹林が大切。
- ・街中の住宅地でも常緑樹（柑橘系）を植樹するなどの取組も有効ではないか。
- ・開発時の緑化義務をもう少し厳しくしてはどうか。

【人材育成について】

- ・小中学生が環境のことをしっかりと考えてもらえる仕組みづくりをする。
- ・国や県がどのような取り組みをしているのかなかなか伝わってこない。市は国や関係機関との人事交流を進めてほしい。
- ・コミュニティを再建することが環境保全活動をするうえで不可欠。
- ・市内出身の著名人から協力を貰える仕組みはできないか。（ネーミングライツなど）
- ・茅ヶ崎の自然の恩恵を受けている事業者から協力を頂く。
- ・学校の同窓会はつながりが強固なので、協賛金などは集まりやすいのではないか。

【みどりについて】

- ・谷戸の保全も水循環と同様に隣接する自治体との連携を図るべき。市境界で取り組みが異なれば、有効な保全はできない。
- ・行谷あたりに生物がすみやすい場所を保全してほしい。
- ・条例などで動植物の生息・生育場所を保全できないか。
- ・茅ヶ崎の代表的な在来種はカエル、タゲリのイメージ。
- ・千ノ川にはメダカが戻ってきている。
- ・孫の世代まで残すというイメージを持たせないとみどりは保全できないのではないか。

【その他】

- ・電線類の地中化を進めてほしい。景観も良くなるし、歩行者や自転車の安全性向上につながる。

10年後の茅ヶ崎の環境のイメージについての主な意見

- ・「必要な時に必要な量だけ〜」は、余らないように購入すれば環境に配慮する行動であるが、その都度買うとコストが割高になるのでまとめ買いをすることもある。(どちらも考えられる)
- ・イメージが抽象的な表現で分かりにくい。
- ・10年後はバランスを見ながらコストよりも資源化を優先する社会になってほしい。
- ・10年後、100年後の未来の環境を考えたり、想うまちになるとよい。(市民、行政含めて)
- ・10年後の市民がさらに10年後の茅ヶ崎をよくしたいと思っているまちにしたい。
- ・茅ヶ崎には緑(グリーン)のイメージがある。(敷地内の緑化)

環境施策についての主な意見

【ごみの排出・分別について】

- ・ごみが多く、分別の種類が少ない。(住んでいた埼玉と比べると)
- ・ごみの有料化は仕方ないが、何ために有料化するのか知りたい。(経費削減のため)
- ・生ごみの水分がどのくらい影響するのか、食品ロスがどのくらいあるのか知りたい。

【4Rについて】

- ・茅ヶ崎では4Rが根付いている。(自治会の取組みにより)
- ・レジ袋を使う人も少ない。

【ポイント還元・デポジットについて】

- ・レジ袋を断るとポイントがもらえるようなメリットを。
- ・使い捨てよりも繰り返し使える容器やデポジットもある。

【海岸の清掃・海洋プラスチックについて】

- ・マイクロプラスチックが海岸にたくさんある。
- ・海洋プラスチックなどは茅ヶ崎だけの問題ではない。(大きな問題である)
- ・マイクロプラスチックになる前に解決する必要がある。

【ボランティアについて】

- ・ボランティア活動に積極的に参加してもらう必要がある。(ボランティアを投げかける)
- ・参加した方にメリットを。

【プラスチックの細かい分別について】

- ・プラスチックの細かい分別を徹底する必要がある。
- ・プラスチックの汚れや紙シールなどを取り除いて資源ごみとして出す。
- ・個人として取り組めることをもう少し増やす。

【プラスチックごみの抑制について】

- ・将来的にはプラスチックゼロの社会づくりへ。
- ・プラスチックごみを出すのがもったいないと思うような社会になるとよい。

【企業の環境活動について】

- ・企業の環境への取組みを消費者が評価できるとよい。(少し高くても買うようになる)

【市民の意識啓発について】

- ・市民の身近な生活に関係していること、実感がないと行動しない。
- ・生活スタイルが変わらないと解決につながらない。

【効果的で分かりやすい情報提供について】

- ・生ごみの水をどうして切る必要があるのかなど、ごみの捨て方をイラストで伝える方が効果的である。(ごみステーションなどに掲示)
- ・エコネット(ポータルサイト)の運用方法の見直しも必要である。
- ・アプリを開発して、災害情報と一緒にごみや環境の情報を発信する。
- ・クリーンセンターのライブカメラやごみ排出量データなど、双方向・リアルタイムの情報があるとよい。(ごみや環境の現状が見える化する)

【リサイクルの推進について】

- ・資源ごみをリサイクル材料として売れるものにする。(リサイクルの質を高める)
- ・プラスチックごみがマイナスのイメージになるのではなく、資源化やエネルギー、お金になるということを知ることによって身近な問題になる。
- ・松の枯れ葉をペレット(固形燃料)化するなど、ごみにせず有効活用する。
- ・焼却灰を新たに資源化する、土や水に戻せる技術開発が待たれる。

10年後の茅ヶ崎の環境のイメージについての主な意見

- ・「賢いエネルギーの使い方」は、何が賢いのか、意味するところを具体的に示さないと市民にはわからないのではないか。
- ・「太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの活用」は、現状から+a程度であり変化がないイメージ。主たるエネルギーが茅ヶ崎市独自の再生可能エネルギー、茅ヶ崎市が使うエネルギーは再生可能エネルギーの普及が進んでいるなどがよいのでは。
- ・CO2削減に取り組むのが当たり前になっているような表現がよい
- ・「地球温暖化」では自分の生活にイメージが直結しないため、「気候変動」「自然災害」の方がよい
- ・市民の方の理解・協力を促せるような示し方をしないと進まないのではないか。
- ・我慢を強いるのは持続可能ではない。温暖化対策と生活を快適にすることが両立できると理解できる表現がよい
- ・省エネというと“我慢”のイメージがある。そうではなく、アクティブなわくわくするような表現がよい。
- ・自分の努力が報われているのかが感じられることが重要。

環境施策についての主な意見

- ・適応策を明確に示し、うまくアピールする必要がある
- ・少子高齢化は避けられないことから、それを踏まえた将来像が必要
- ・市の発展を考えると「交通」「観光」も重要。
- ・削減目標値は、神奈川県と整合させるべき。
- ・経済成長とCO₂削減のデカップリングを実現する施策が必要。
- ・個人の努力に頼るのではなく、自然とよい方に誘導してくれる仕組み・施策をお願いしたい。
- ・コミュニティバスはバス停からバス停の間隔が狭く、アイドリングによりCO₂排出が多い。AIを活用して予約運行にするなど運用方法の工夫が必要。
- ・公用車の電気自動車の割合を増やすべき。
- ・ソーラーシェアリング普及の動向が気になる…まずは市民農園から導入してはどうか？
- ・エネルギーの地産地消を進めるためには、ポテンシャルがどれくらいあるのかきちんと調査すべき
- ・少子高齢化により緩和策の推進（市民の取組への協力）は難しくなるのでは。適応策、例えばクールシェアスポットのような取組の推進が必要となる。高齢者にどう伝えるかが課題。
- ・地球温暖化の理解を深めるために、親も子も教育が重要。
- ・小・中まとまった教育が必要。
- ・電線・鉄塔の地中化→ドローン配送の推進→ガソリン車の使用削減



第3回ワークショップ

実施プログラム

- 1 開会あいさつ
- 2 前回のおさらい、本日の討議テーマの説明
- 3 みんなが環境活動に参加できる仕組みについての意見交換
 - (1) 自己紹介・意見交換
 - (2) 各グループの意見発表
- 4 閉会あいさつ

配布資料（説明スライド）

第3回 ちがさき環境ワークショップ

本日の討議テーマについて

環境政策課

1. 第2回WSのおさらい

前回の討議テーマ

10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

市民、事業者、市が共有できる「分かりやすい将来イメージ」を立案

- 欠けている重要事項がないか？
- どのような施策・事業が必要か？
- 茅ヶ崎らしさが表現されているか？

●自然共生グループ

10年後の茅ヶ崎の環境のイメージについての主な意見

- ・自然環境、高山世界の維持
- ・自然、動物、植物、希少種の保護を併せて一体的なものとして残らせる

環境施策についての主な意見

- 【本事業について】
 - ・水環境の改善を行うには、流域全体との連携が不可欠。流域全体と連携してつながる必要がある。
 - ・環境の改善は自然環境の保全と密接な関係がある。
 - ・茅ヶ崎の自然環境の保全は環境政策で進めなければならない。
 - ・環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。
 - ・自然環境の保全は自然環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。
 - ・自然環境の保全は自然環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。
- 【自然共生について】
 - ・自然環境の保全は自然環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。
 - ・自然環境の保全は自然環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。
 - ・自然環境の保全は自然環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。

●ごみ減量グループ

10年後の茅ヶ崎の環境のイメージについての主な意見

- ・自然環境の保全は自然環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。
- ・自然環境の保全は自然環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。
- ・自然環境の保全は自然環境だけでなく、自然環境の保全も進めなければならない。

環境施策についての主な意見

- 【ごみ減量、資源について】
 - ・ごみ減量、資源の回収率を上げる必要がある。
 - ・ごみ減量、資源の回収率を上げる必要がある。
 - ・ごみ減量、資源の回収率を上げる必要がある。
- 【ごみ減量、資源について】
 - ・ごみ減量、資源の回収率を上げる必要がある。
 - ・ごみ減量、資源の回収率を上げる必要がある。
 - ・ごみ減量、資源の回収率を上げる必要がある。

●地球温暖化対策グループ

10年後の茅ヶ崎の環境のイメージについての主な見直し

- 「脱炭素社会」の実現に向け、脱炭素社会を実現するための具体的な目標を設定する必要があります。
- 「脱炭素社会」の実現に向け、脱炭素社会を実現するための具体的な目標を設定する必要があります。
- 「脱炭素社会」の実現に向け、脱炭素社会を実現するための具体的な目標を設定する必要があります。
- 「脱炭素社会」の実現に向け、脱炭素社会を実現するための具体的な目標を設定する必要があります。
- 「脱炭素社会」の実現に向け、脱炭素社会を実現するための具体的な目標を設定する必要があります。
- 「脱炭素社会」の実現に向け、脱炭素社会を実現するための具体的な目標を設定する必要があります。
- 「脱炭素社会」の実現に向け、脱炭素社会を実現するための具体的な目標を設定する必要があります。
- 「脱炭素社会」の実現に向け、脱炭素社会を実現するための具体的な目標を設定する必要があります。

環境施策についての主な見直し

- 環境施策の推進に際し、より多くの人々を巻き込む必要がある。
- 市民参加の促進が不可欠であり、市民参加の促進が不可欠である。
- 市民参加の促進が不可欠であり、市民参加の促進が不可欠である。
- 市民参加の促進が不可欠であり、市民参加の促進が不可欠である。
- 市民参加の促進が不可欠であり、市民参加の促進が不可欠である。
- 市民参加の促進が不可欠であり、市民参加の促進が不可欠である。
- 市民参加の促進が不可欠であり、市民参加の促進が不可欠である。
- 市民参加の促進が不可欠であり、市民参加の促進が不可欠である。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

自然共生のイメージ案

生物多様性に保全についての継続的な情報発信により、生物多様性に対する市民の意識も高まっています。谷戸や里山、北部の丘陵地、海岸、農地、市街地の樹林などの多様な自然環境に対する市民や事業者による保全の機運も高まり、地域住民による保全活動、維持管理活動が広がりを見せています。

絶滅に瀕している生物の生息域を広げることにより個体数が増えるなど、多様な生きものが生息・生育できる環境に還元しつつあります。

みどりや水と気軽にふれあえる機会や場も広がり、暮らしの中で自然の豊かさを実感できるまちになっています。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

資源循環のイメージ案

必要な時に必要な量だけ商品を購入する、捨てる前に必要としている人に譲るなど、環境に配慮した消費行動が定着しています。

家庭では水切りの徹底や食品ロスを減らす取り組みが広がり、家庭から出される燃やせるごみが減っています。

資源化が可能な紙類やプラスチック製容器包装などの分別排出も徹底され、市民1人が1日当たりに排出するごみの量が少ないまちになっています。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

快適な住環境のイメージ案

水や大気、土壌環境については環境基準を維持し、継続的に改善が図られています。騒音や振動、光害などに悩まされる市民が減っています。

ポイ捨てや不法投棄が減り、良好な住環境が維持されています。

人々に茅ヶ崎らしさを感じさせる愛着のあるみどり、水辺、眺望等の景観資源が維持されるとともに、市民による住宅地の緑化が進むなど、みどりが豊富に感じられるまち並みになっています。

雨水の貯留や涵(かん)養能力を持つ農地、樹林地が保全されるなど、水が健全に循環するまちになっています。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

気候変動への対応のイメージ案

家庭や事業所においては、無駄を排除し、無理なく続けられる省エネ行動の定着に加えて、省エネ型の機器や次世代型自動車の導入が進むなど、温室効果ガスの排出が抑制されたまちになっています。

また、太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの活用など、気候変動を緩和する取組が図られています。

さらに、気候変動に適應する取組も進められ、市民の防災意識の高まりとともに、グリーンインフラを活用した豪雨などによる自然災害対策や熱中症を予防する取組が浸透したまちになっています。

●10年後の茅ヶ崎の環境のイメージ

環境保全活動のイメージ案

市民一人ひとりが環境問題について学び、考え、環境にやさしい行動を積極的に実践する機会が身近にあるまちになっています。

家庭や学校、職場など様々な場面で、省エネ行動やごみ減量の取組を行うことが、市民や事業者に定着しています。

多様な自然と歴史・文化にあふれた茅ヶ崎を、より豊かにして未来の子どもたちへ引き継ぐため、市民、事業者、市がそれぞれの役割を果たしつつ、互いの特性を生かして連携・協力して、さまざまな環境保全活動に取り組む、環境にやさしいまちになっています。

2. 本日の討議テーマ

みんなが環境活動に参加できる仕組みの立案

●なぜ環境活動に参加しないのか？

【環境セカンドランナーの底上げ】

●確実な到来が予想される少子高齢社会にあって、市の環境を良くしていくためには、環境分野のサイレントマジョリティである「環境セカンドランナー」の底上げが非常に重要な課題

どのような工夫をすれば、環境施策の情報が市民や事業者にも伝わるのか、活動に参加してくれるのか、検討していくことが必要

●なぜ環境活動に参加しないのか？

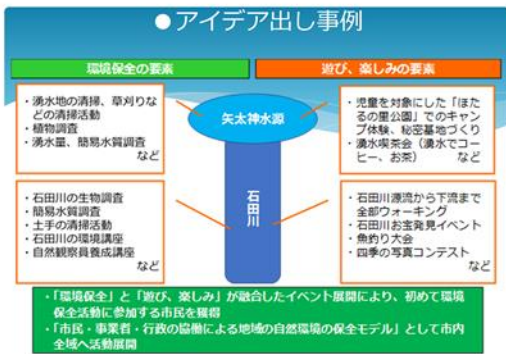
価値観・ライフスタイル	活動内容・活動のイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ● 近頃一歩ずつ時代の進歩が実感できず、環境活動が自分ごとにならない ● サラリーマンだと地域の環境について知る必要がない ● 環境に対する認識が低い ● 環境活動に参加することが自分ごとにならない ● 環境活動は関係がするものという認識が薄い ● 地域ごとに生活圏や行動範囲が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分に環境問題は関係ない、他人事の問題 ● 環境活動が楽しくない、楽しめない ● 環境活動のイメージが悪い ● 参加のハードルが高すぎる ● 参加のイメージが古い ● 参加のイメージが古い
情報発信	参加するまでのプロセス
<ul style="list-style-type: none"> ● 入り・参加のハードルが高い、参加の機会が少ない ● 参加の機会が少ない ● 参加の機会が少ない ● 参加の機会が少ない ● 参加の機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人で参加することを敬遠している ● 参加のイメージが古い ● 参加のイメージが古い ● 参加のイメージが古い ● 参加のイメージが古い

●アイデア出しのヒント

- 意見を整理した結果、いくつか重要なキーワードが含まれている。
- 自分が環境活動をしなくても誰かがやってくれる、環境活動の敷居が高い、活動が楽しくない、活動するメリットがない、一人で参加したくない

↓

楽しい、面白い、満足感（メリット）が得られる、継続できる、仲間に参加できる



●アイデア出し事例

キャンドルディナーのタベ

■ イベント概要

COOL CHOICE運動の一環として、照明の代わりにキャンドルを灯して夕食を楽しむワンデーイベント

■ イベントの狙い

- ・ 節電意識の高揚
- ・ 防災意識の啓発・普及

- アイデア出し事例
- イベント実施イメージ
- 家庭の夕食時に、必要最低限の照明に落とし、テレビを消し、キャンドルライトの明かりで、家族全員で食事を楽しむ
 - 災害時の予行演習として、キャンドルライト、ランタン等の明かりで、防災食を試してみる

みんなが環境活動に参加できる仕組みについての主な意見

【一人ひとりの意識と行動の喚起】

- ・一人ひとりが環境に意識することが大事である。
- ・行政任せではなく、市民一人ひとりの自覚が必要である。
- ・お金がかかることや難しいことではなく、自分が今できることを考えて行動する。
(例えば、マイバックやプラスチック製包装容器から紙袋など)
- ・企業にはプラスチックをつくらないでもらう、市民は出さない意識が必要である。
- ・環境に協力する人を増やしていく。
- ・親が子どもにごみの分別を見せることが大事である。
- ・子どもの心をキャッチすると親も動くようになる。
- ・きれいな風景の写真を撮りにくる方も多い。景観にも意識した行動も必要である。

【ごみの減量化・リサイクルの情報発信】

- ・ごみの問題は分かっているけど、行動につながっていない。
- ・ごみの問題には、経済問題、人材育成、意識向上などいろいろある。
- ・ごみの分別や出し方など、ルールを守ることを徹底する必要がある。
- ・ごみ処理に30億円/年かかることを知ると意識が高まるのではないかな。
- ・将来的にごみの焼却炉をリニューアルするにもコストや場所の問題で困ると思う。
- ・ごみを減量化するといくら安くなるのかメリットをPRすべきである。
- ・プラスチックを減らすことが重要である。
- ・プラスチックのリサイクルがどうなっているのか分からない。
- ・何でも燃やせるごみとして出してしまうのではないかな。資源が循環する社会にしたい。
- ・ごみの有料化は何のために行うのか、環境が良くなるのか不明確である。
- ・有料化をするとごみステーションに不法投棄が増えるのではないかな。
- ・有料化によるデメリット対策も合わせて行う必要がある。

【リサイクルセンター等の見学ツアー】

- ・ごみの行き先や資源のリサイクルがどのようになっているのかを知ることが大事である。
- ・リサイクルセンターでの分別を人の手で行っていることを知ってもらう。
- ・環境事業センターやリサイクルセンターの見学ツアーがあるとよい。

【自治会などの活動体制】

- ・自治会など小さな単位で活動を広げてはどうか。
- ・環境指導員の役割の明確化」や新しい住民が参加しやすい工夫が必要かと思う。

【環境体験イベントの充実】

- ・里山や生き物などの体験から環境を意識してもらう。
- ・子どもと一緒に親にも環境イベントに参加してもらう。
- ・遊びながら環境問題を体感できるイベントがあるとよい。
- ・中央公園で環境イベントを実施してはどうか。
- ・環境イベントに係る費用を負担する仕組みづくりが必要である。

【若者が集まるイベントの効果的な活用】

- ・大学の学園祭などで環境活動の取組があると学生の意識が高まる。
- ・学生にリーダーシップをとってもらい、小中学生に環境問題を教えてはどうか。
- ・学生が活躍できる場所や機会を応援する。
- ・子どもと大人の間に入る世代、学生からの方が子どもに伝わりやすいのではないかな。
- ・市内や近隣の学生からアイデアを出してもらう。
- ・若者が関わることでSNSを活用して環境イベントを発信してもらう。

【持続可能な社会を目指した地域づくり】

- ・環境配慮や持続可能な社会づくりを企業のブランディングツールとして活用してもらう。
- ・スポーツクラブなど市民団体も持続可能な地域づくりの視点を加えてPRしてはどうか。
- ・湘南国際マラソン等で環境配慮のまちづくりや参加企業をもっとPRしてはどうか。
- ・スポーツなどが入り口だといろいろな世代が関わりやすい。

【環境情報の見える化】

- ・意識を行動に移すことの効果を具体的に数字で表すことで参加意識が高まる。
- ・駅の電子看板(サイネージ)などで環境情報を市民に提供する。
(例えば、ごみ指数として今日のごみの焼却量やプラスチックごみの量、CO₂排出量など)
- ・人通りの多いところに横断幕(スローガン)や環境強化月間として市を挙げてPRする。
- ・駅前でごみ拾いなどの活動を見ることで市民の意識も高くなるのではないかな。

【広報等による積極的なPR】

- ・行政から発信された情報や資料などを知らない方が多い。
- ・広報には行事の案内・お知らせだけでなく、具体的な取組状況を掲載してほしい。
- ・ワークショップ等のイベントは気になるけど、堅苦しく感じて参加しづらい。

みんなが環境活動に参加できる仕組みについての主な意見

普及啓発の課題と考え方

【普及啓発の方法】

- ・危機感を持ってもらう必要がある。台風被害など実害から考えられる取組が必要である。
- ・地球温暖化という大きなテーマが身近に感じられる工夫が必要である。
- ・生活のなかにそのまま自然に入り込んでいるような形がやりやすい。結果として環境にいいとなっていればよい。
- ・市の広報やHPなどもあるが知らない人も多い。情報が溢れており、自分がみたい情報を選別する傾向がある。目に留まるような工夫が必要である。
- ・お祭りで出されている環境のブースなども気が付かない人が多い。
- ・利用しないと無くなってしまうものもある。(ショッピングモールのシャトルバスなど)
- ・面白いと思ってもらえるものがあると良い。
- ・参加してもらう、委員になってもらうこともきっかけになるであろう。

【普及啓発の対象】

- ・外国人・観光客でもわかりやすいよう、まちなか全体での情報発信が必要である。
- ・あまり外出しない高齢者など家にいても情報を受け取れる仕組みが必要である。
- ・子どもの頃から環境について考えるきっかけを与えるべき。
- ・親世代(共働き世帯など)への周知、啓発が必要である。子どもからでは親まで浸透しないケースもある。
- ・茅ヶ崎市民は他都市と比較すると環境に関する意識が高い。英国の「世界の住みやすいまちベスト7」にランキングしている。茅ヶ崎市民として誇りを持って取り組めるといいと思う。世界規模で日本のノウハウを情報発信してもいいと思う。
- ・他都市と比較すると茅ヶ崎市の分別は細かく守られており、BOXのごみ箱も使いやすいものである。他都市と比べて意識が高いことがわかるとよい。

普及啓発策のアイデア

【情報発信の場所やツールの工夫】

- ・バスや電車、タクシーの画面モニターなどで情報発信するとよい。
- ・バスのなかでのアナウンスやラッピングバスなどもいいであろう。
- ・駅や歩道橋の垂れ幕での啓発もよい。(ただし、情報を頻繁に更新するべき。)
- ・市の広報車やタクシーなどで、歩いていても乗っていても目に留まるものがあるとよい。
- ・スーパーや店舗に啓発の協力をお願いする。人の動きの動線を考えたうえで目に入る工夫が必要である。(レジ横、荷物をつめる場所など)
- ・新聞の折り込みやコンビニの紙コップ、全戸配布などの方法もある。
- ・高齢者向けに病院での広報や、病院へ行くバスでの広報なども有効であろう。
- ・他分野での啓発やイベントなどに環境としても参加していくべき。
- ・地域のイベント(運動会)などで啓発することもできるかと思う。

【情報発信の見せ方の工夫や仕組みなど】

- ・環境の企業とタイアップし活動した市民にポイントが付与されるとよい。(インセンティブ)
- ・活動の状況を数値化・見える化し、情報更新を頻繁にすることで、目に留まるのではないかな。
- ・高齢者などが情報入手のための登録ができるよう、メールの講習会などを開いてはどうか。
- ・市民祭りのときに、他のお店でも情報掲示する等、存在を知ってもらう必要がある。
- ・リサイクルするとシールがもらえる取組や、子どもが活動を発表できる場があるとよい。
- ・マンション管理会社と連携したごみ分別の取組や、分別した資源が自治会の活動資金になっていることなどを住民や子供たちに伝えていけるとよい。
- ・マイクロプラスチックの啓発でリサイクルしたTシャツアートを海でつくるイベントがある。(今治市の例)
- ・学校の総合的な学習の時間などに地域の方を先生として講師に招くなども考えられる。

みんなが環境活動に参加できる仕組みについての主な意見

【普及啓発の考え方】

- ・まずは情報発信が肝要である。
- ・省エネ行動は習慣になっていかないといけない。そのための正しい知識を伝達することが重要である。
- ・省エネ行動は我慢して行うものではない。無理なく、無駄なくできることが肝要である。
- ・少子高齢社会のなかで、子どもだけでなく高齢者への教育（特に熱中症対策などの適応策）も力を入れていく必要がある。
- ・省エネ行動の効果が見えるような情報伝達をしていかなければならない。
- ・これまでも省エネ行動の紹介はしてきたが、行動の成果や効果（例えば、光熱費の節約額など）が伝わっていない。行動の紹介とともに効果も合わせて伝えていく必要がある。
- ・茅ヶ崎市の「まちのイメージ」や「くらしのイメージ」と合致した情報発信をしていけば効果的ではないか。



【情報発信の方法・アイデア】

- ・世代によって活用している情報媒体が違う。多様なチャンネル（媒体）で情報発信を行うべき。
- ・紙ベースで省エネ行動を紹介しても行動のイメージが伝わりにくい部分もあるのではないかと。例えば、YouTube を活用して省エネ行動を紹介すれば、即座に理解してもらえるのではないかと。
- ・YouTube で省エネ行動を発信していくのであれば、そのような動画があることを周知していかなければならない。市のウェブサイトやエコネットと連動できないかと。
- ・自治会等の集まりの際に、環境に関する簡単な説明をする機会を設けることも情報伝達という面では有効ではないかと。
- ・エコネットの情報をもっと充実させ、活用していく必要がある。
- ・エコファミリーやエコ事業者の登録を呼びかけているが、なかなか登録者数が増えていないのが現状である。登録することのメリットを発信すべき。
- ・集合住宅向けの情報発信方法も考えていかなければならない。
- ・省エネ行動を実践した市民や事業者の情報を収集し、共有できる仕組みがあると良い。省エネ行動の効果が伝わりやすいのではないかと。